

今回は、ルワンダの大学に留学された日本の大学生・内田歩さんによるものです。

2018年7月10日
竹内 緑

～竹内緑さんの活動を訪問させて頂いて感じた事～

東京外国語大学アフリカ地域専攻3年の内田歩と申します。
昨年の9月から1年間、日本の大学を休学しルワンダの大学で平和構築を学んでいます。今回、6月22日に緑さんのご活動を見学させて頂く機会が与えられました。その中で私が学んだこと、感じたことをいくつかシェアさせていただきます。

まず初めに私が学んだことは、受益者一人ひとりの方々と向き合って深い関わりを持つことの大切さです。今回の訪問で、緑さんが目の前の一人とまっすぐに向き合い、関係を築いていらっしゃる様子を見させていただきました。

とても印象的だったのは、受益者のひとりである Valentine さんのお宅を訪問させて頂いたことです。彼女は貧困とレイプによりトラウマを負っていましたが、緑さんのサポートを受けて今では将来の夢も持つようになったそうです。自らテイラーになることを志願し今も技術向上に努めている彼女は、嬉しそうに将来の夢を私たちに教えてくれました。緑さんへの感謝の言葉を何度も口にしており、自分のことを見捨てずに支え導いてくれる人がいるという、緑さんの存在が彼女を励まし続けているのだと強く感じました。

ふたつ目に、トラウマ治療のためには全人的なアプローチが重要だということ。トラウマを負った方々は、精神的な支援だけでなく、身体的、社会的、そして霊的な支援を必要としています。今日食べるものが無いのに、将来の希望は持てないし、身体的な安全の確保なしに、精神的な安定や霊的な成長は得られません。そしてトラウマは連鎖を絶ちきらなくては、その傷は親から子へと受け継がれてしまうものです。総合的な側面からトラウマを治療して受益者の方々を支援している緑さんの活動が、確実に一人ひとりを、そしてその子どもたちを救っているのだと思いました。

アナタジィ一家の三女ベラは、とても人懐っこくて、はにかんだ笑顔が愛おしい女の子です。私たちの訪問を知ると家から出てきて自分から近寄り、ハグをしてくれました。彼女はハグした後に服をめくり、栄養失調によってまだ少

し大きく膨らんでいるお腹を、自分から私に見せてくれました。きっといつも緑さんに見せているのでしょう。少しずつ栄養状態が回復している、と緑さんが教えてくださいました。子どもたち一人ひとりが愛と栄養をたくさん受けて、心も体もすくすくと元気に育ってほしいです。

43 4

最後に、私が緑さんのご活動全体を通して最も感じたのは「愛」です。最も弱い立場にいる人、虐げられている人、深く傷ついている人に救いの手を差し述べて、一人ひとりに寄り添う緑さんのお働き。それぞれと真っ直ぐに向き合い愛を持って接することによって、「あなたは愛されるために生まれてきたんだよ、愛されているんだよ」というイエス様の愛を伝えているような気がしました。この世界には、誰からの愛も感じられず、大切にされず、苦難の中で本当に辛い経験を背負って生きている人たちがまだまだたくさんいます。でも、誰一人として、いない人はいない。神様は一人ひとりのことを丁寧に造ってくださって愛してくださっています。そのメッセージを緑さんは、人との関わりを通して、祈りを通して、またご活動を通していつも伝えて続けているのだと感じました。

また、今回緑さんのお宅に2泊させていただき、その生活ぶりや豊かなお交わりの時を通して多くを学ばせて頂きました。久しぶりの日本食に心がホッとして、体の疲れも癒されました。そして穏やかな緑さんの包容力に癒され、その力強い祈りに励まされました。何か大切な決断をする際には、長く祈る時間を持たれるということをお教えたのですが、「祈りは応えられる」と力強くおっしゃる姿に、まさに主に信頼して生きるとはこういうことなのだと感じました。

緑さんは、目の前にいるその人を愛し、大切にされる方です。これは当たり前のようなのですが、私にとっては時に難しいことだと感じました。同じ日本人としても、女性としても、信仰者としても本当に尊敬する緑さんに、ルワンダの地で出会えたこと本当に感謝です。

ルワンダに留学した約1年間、私は将来どうやって生きていこう、とずっと考えてきました。リリマ訪問を終えた今、緑さんのように、神様の愛や命の尊さを伝えて、最も弱い立場にいる人たちに寄り添っていく、そんな生き方がしたいと思わされています。

東京外国語大学アフリカ地域専攻3年
内田歩